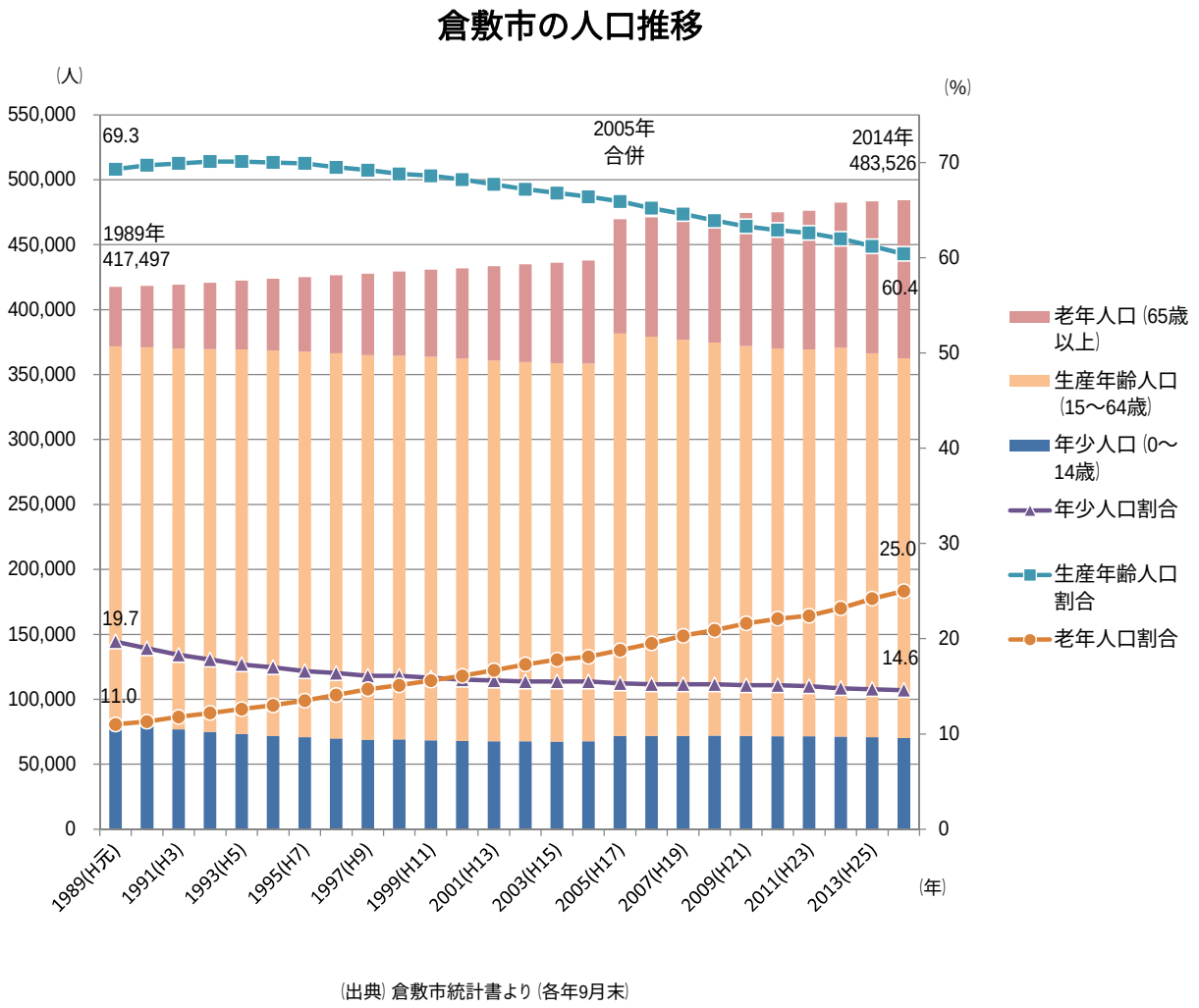
# 図表1



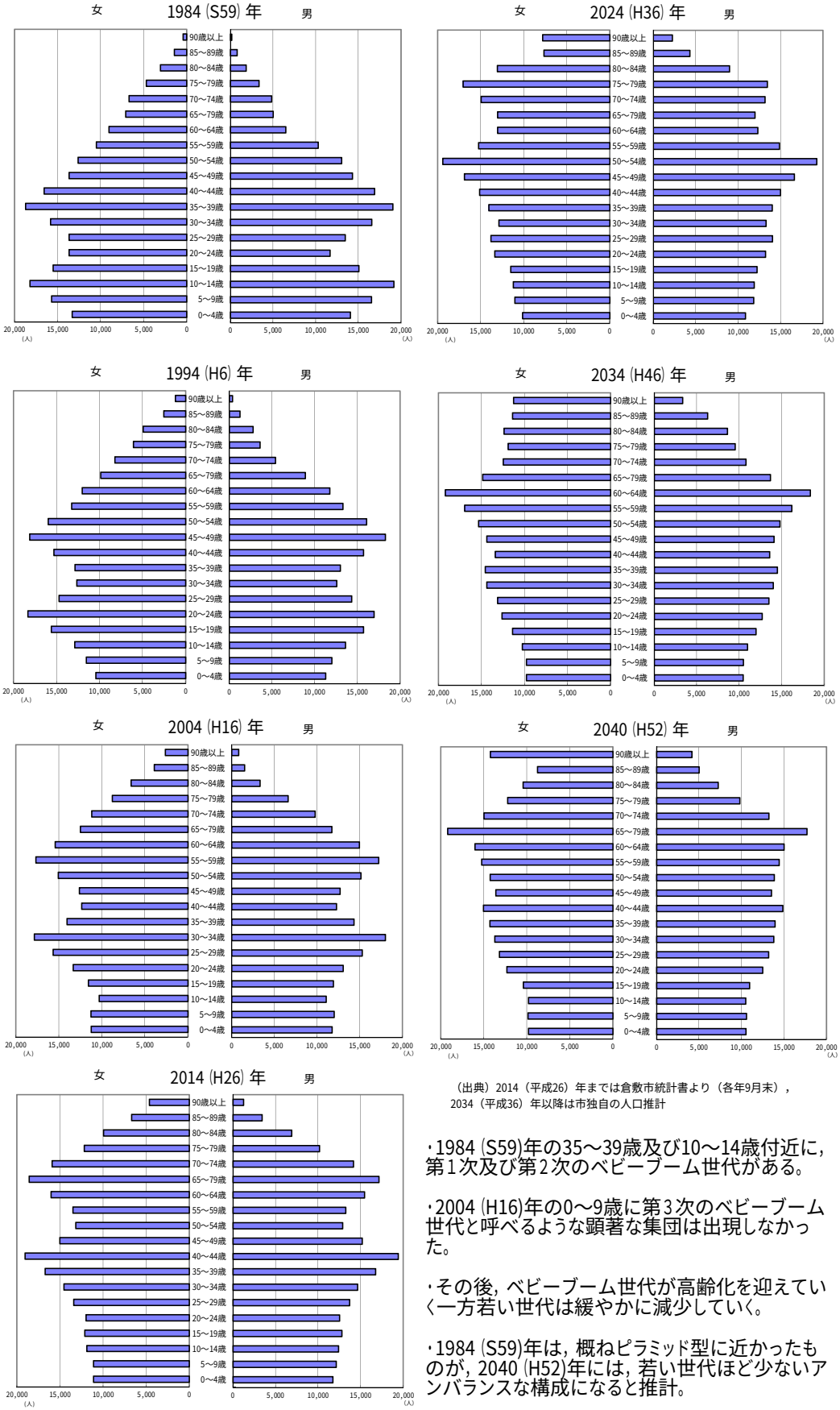

(出典) 倉敷市統計書より(各年9月末)

・1989(平成元)年の417,497人から，2014(平成26)年の483,526人へ66,029人15.8%増加。

・人口構成では，老年人口が11.0%から25.0%へ14.0ポイント増加。
それに対し，年少人口は19.7%から14.6%へ5.1ポイント，生産年齢人口が69.3%から60.4%へ8.9ポイント減少。

# 図表２

## 倉敷市の人口ピラミッドの推移と見通し




（出典）2014（平成26）年までは倉敷市統計書より（各年9月末），
2034（平成36）年以降は市独自の人口推計

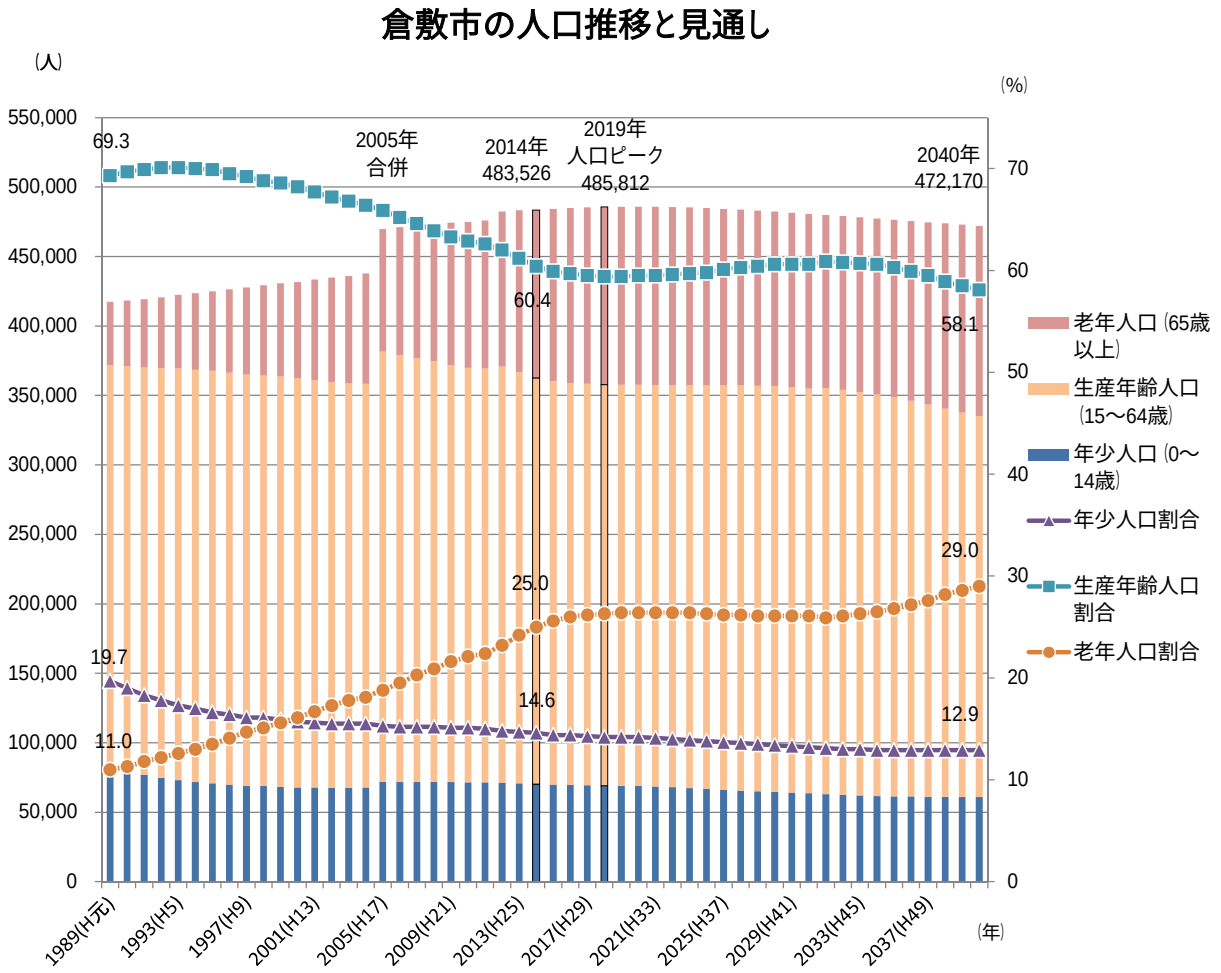
・1984（S59)年の35～39歳及び10～14歳付近に，第１次及び第２次のベビーブーム世代がある。

・2004（H16)年の0～9歳に第３次のベビーブーム世代と呼べるような顕著な集団は出現しなかった。

・その後，ベビーブーム世代が高齢化を迎えていく一方若い世代は緩やかに減少していく。

・1984（S59)年は，概ねピラミッド型に近かったものが，2040（H52)年には，若い世代ほど少ないアンバランスな構成になると推計。

# 図表3



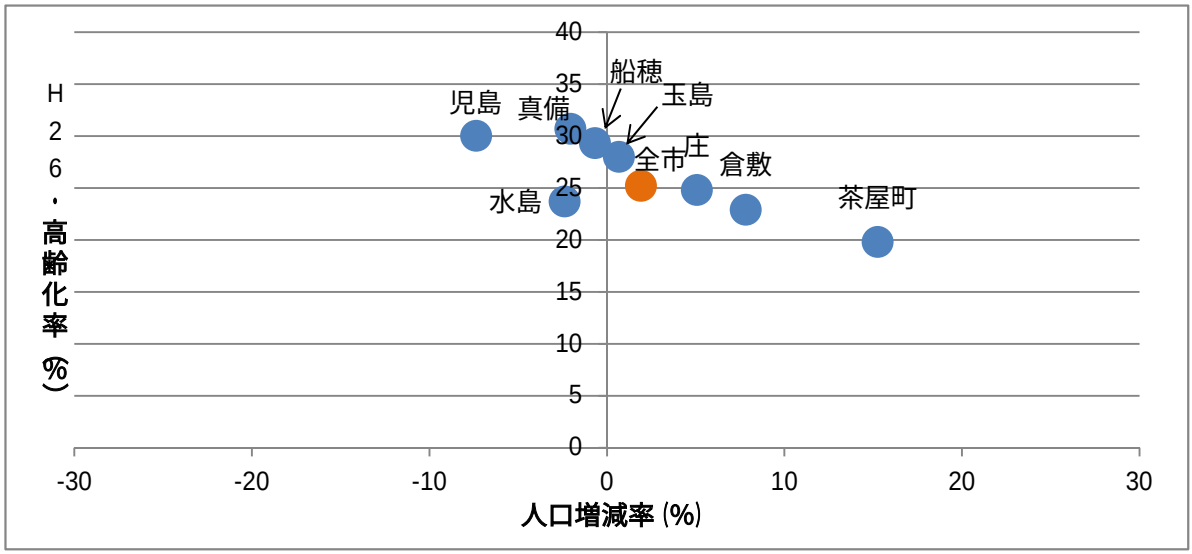

(出典) 2014 (平成26) 年までは倉敷市統計書より (各年9月末),
2015 (平成27) 年以降は市独自の人口推計

・2019 (平成31) 年の485,812人をピークに，減少に転じ，2040 (平成52) 年には472,170人と推計。
対ピーク時に対して，2.8%減。

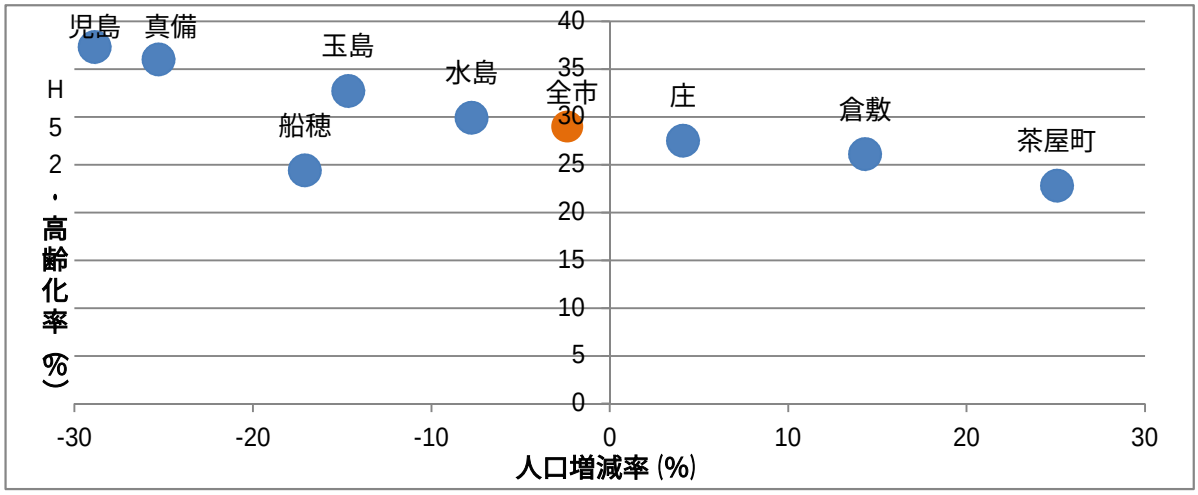
・人口構成では，老年人口が11.0%から29.0%へ18.0ポイント増加。
それに対し，年少人口は19.7%から12.9%へ6.8ポイント，生産年齢人口が69.3%から58.1%へ11.2ポイント減少。

図表４

地区別人口増減･高齢化率の推移（H17－H26）




地区別人口増減･高齢化率の見通し（H27－H52）



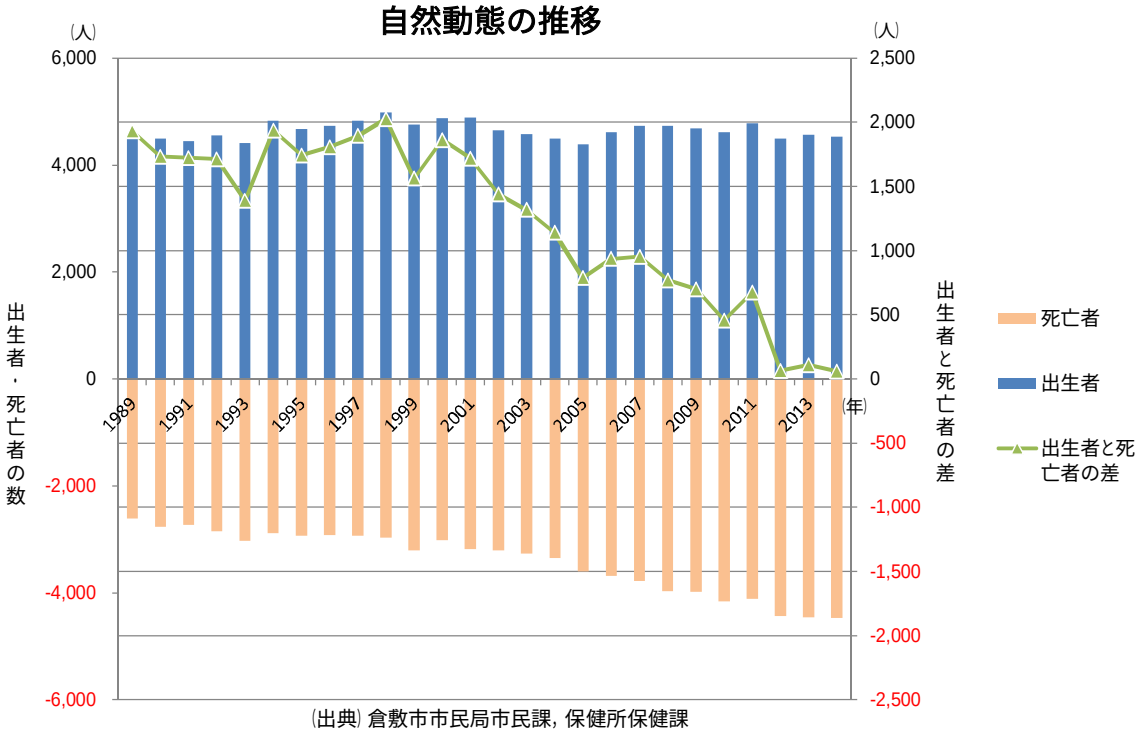

（出典）倉敷市市民局市民課「住民基本台帳」，H52（2040）年の推計値は，市独自の人口推計

･H26までは，茶屋町･倉敷･庄･玉島地区で人口が増加。H26の高齢化率は，真備地区が30.7%で最も高く，茶屋町地区が19.8%で最も低い。

･H27からH52の見通しでは，茶屋町･倉敷･庄地区で人口が増加。H52の高齢化率見込は，児島地区が37.3%と最も高く，次いで真備地区となっている。

･船穂地区を除く各地区は，高齢化率が増加しているのに対し，船穂地区は4.9%減少する見込み。

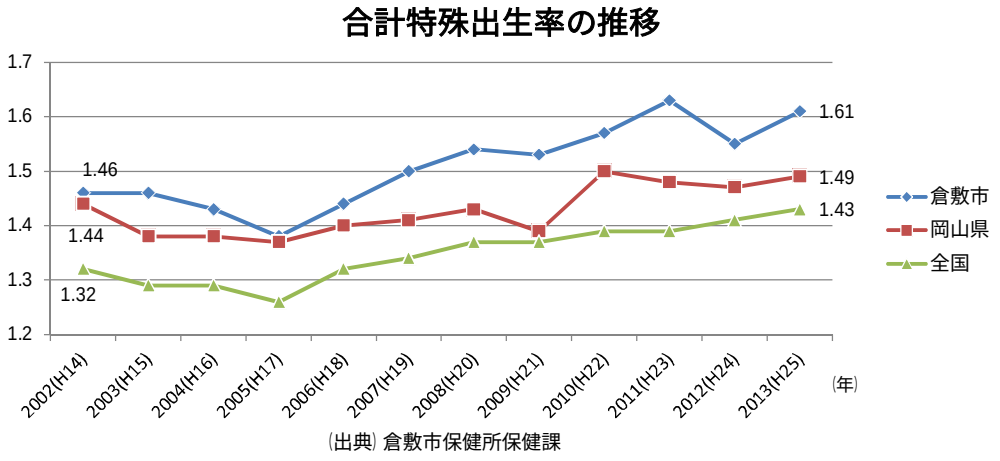
## 図表5




・自然増の状態が長らく続いていたが，急速に低下している。

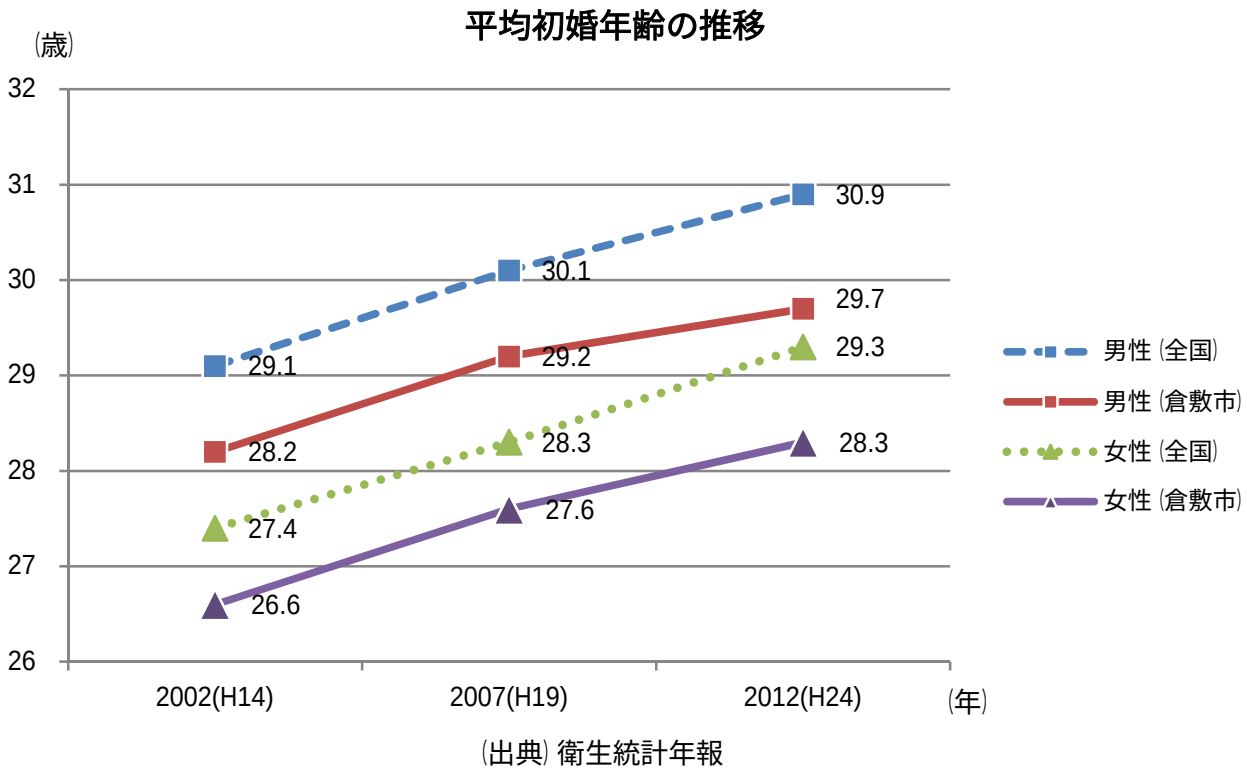
・出生数は横ばいだが，高齢者の実数が増えたことにより，死亡者が増加。

## 図表6




・2006 (平成18) 年より上昇に転じ，国及び県平均より高い。

図表7




(出典) 衛生統計年報

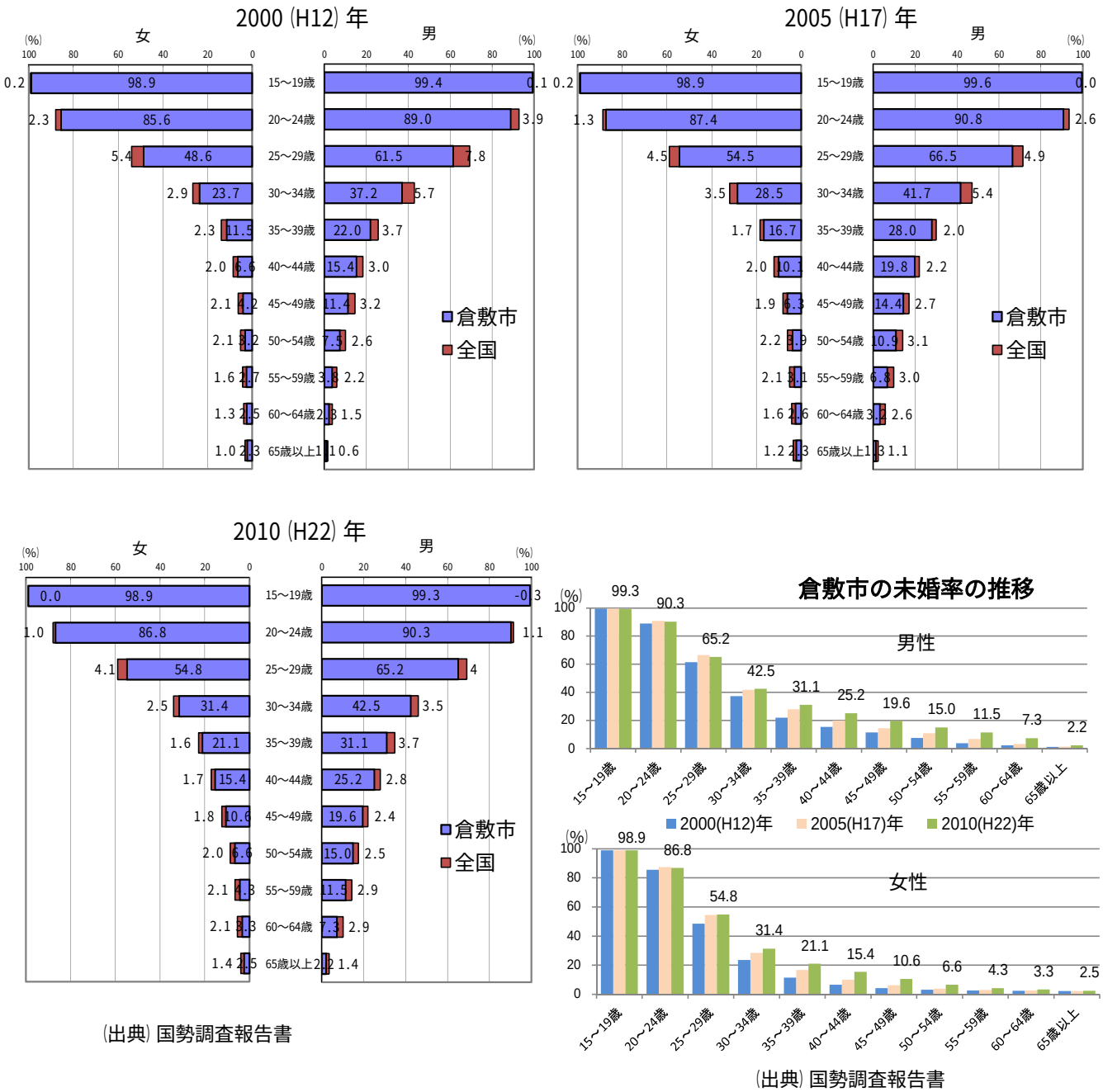
・男性・女性ともに倉敷市は，全国平均に比べて早い。

・女性よりも男性の方が高い。

・2002 (平成14) 年と2012 (平成24) 年の10年間で，平均初婚年齢が全国平均で1.8～1.9歳高くなり，倉敷市も同様に1.5～1.7歳高くなっており，晩婚化が進んでいる。

# 図表8

## 未婚率の推移（15歳以上）




（出典）国勢調査報告書




（出典）国勢調査報告書

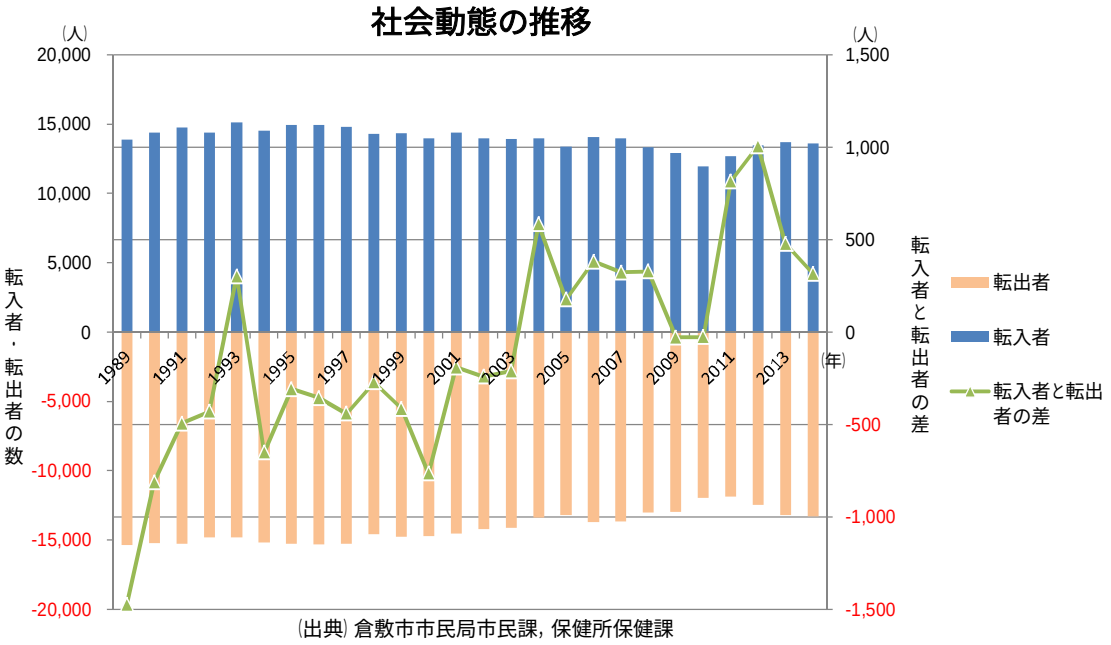
・倉敷市の未婚率は，男性女性とも概ね各年齢階層で全国平均を下回っている。

・同じ年齢階層ならば，男性のほうが未婚率が高く，男性女性とも年々未婚率が上昇している。

・25～29歳では，男性で60%、女性で50%を超えている。

・30歳代では，男性で概ね40%、女性で20%が未婚となっている。

## 図表9

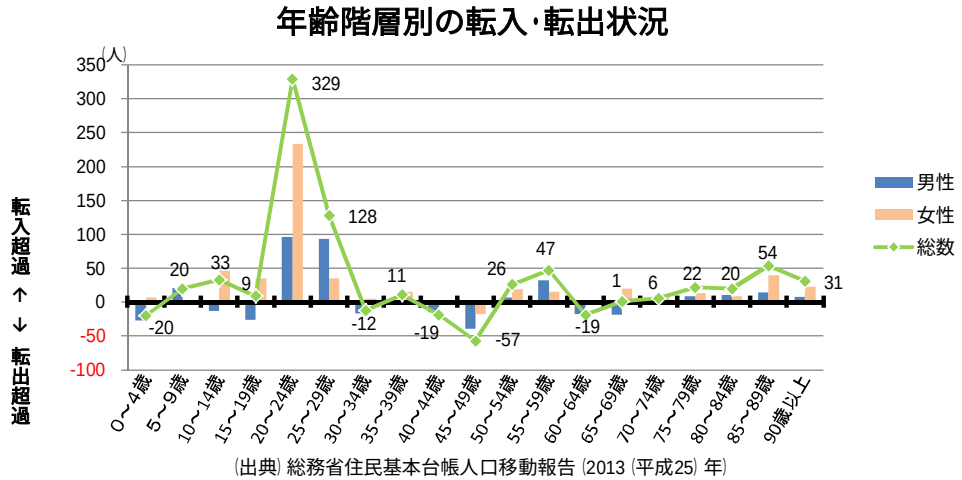



(出典) 倉敷市市民局市民課，保健所保健課

・転出超過の状態が続いていたが，2004 (平成16) 年に転入超過となった。

・しかし，ここ2年は転入超過数が減少し，予断を許さない状態。

## 図表10

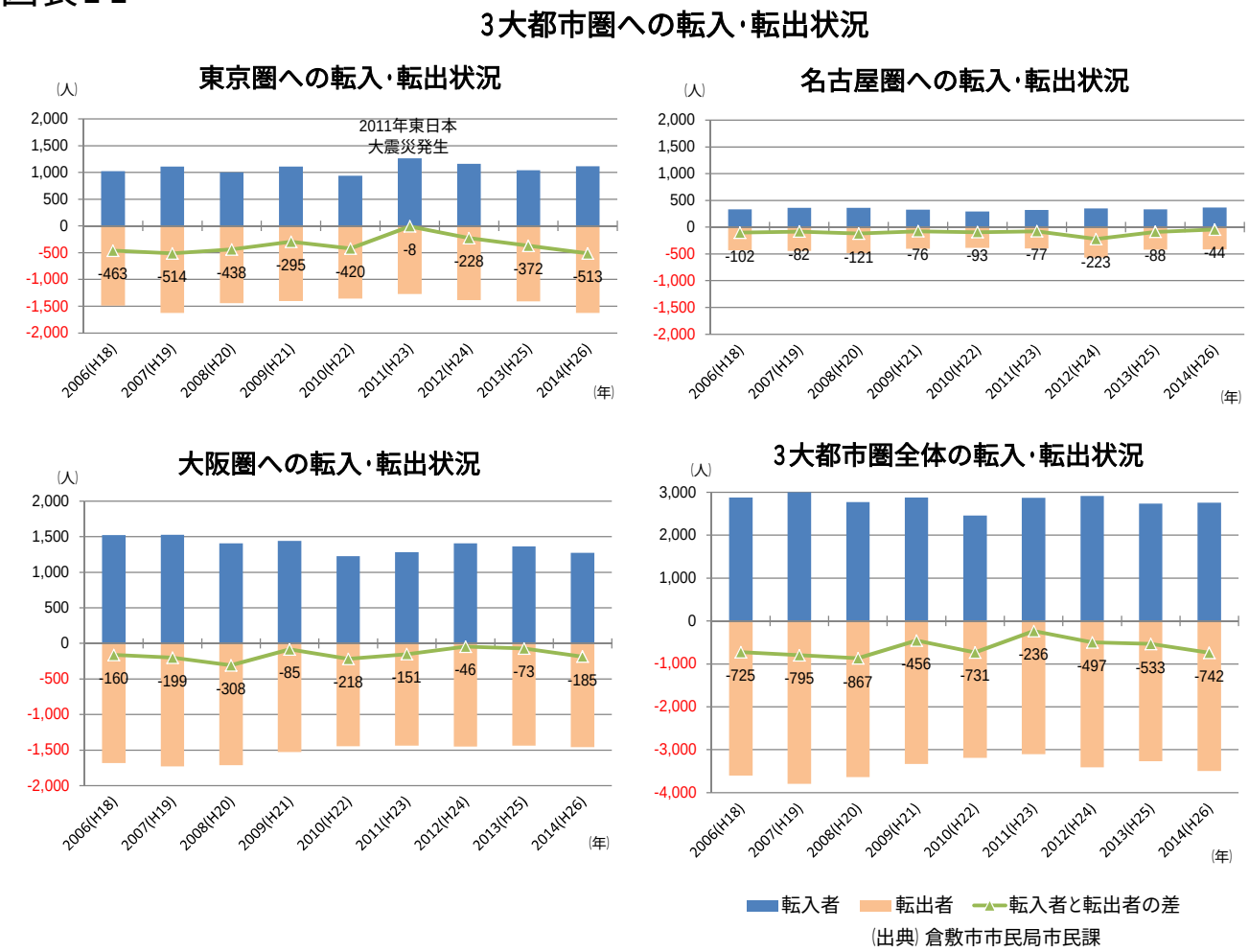



(出典) 総務省住民基本台帳人口移動報告 (2013 (平成25) 年)

・20～29歳で転入超過となっており，就職などで本市へ転入している可能性が強い。

・15～19歳の大学進学・就職時では，男性は転出超過となり市外へ進学・就職している可能性が強い。
　女性は，逆に転入超過となっている。

図表１１

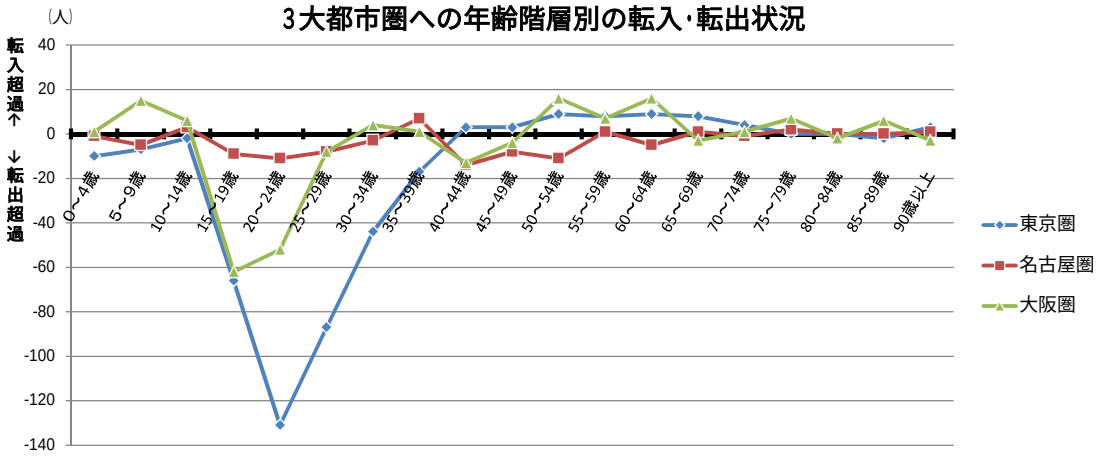



(出典) 倉敷市市民局市民課

･3大都市圏に対して，東日本大震災のあった2011 (平成23) 年を除いて，毎年400～800人規模で転出超過。

･とりわけ東京圏への転出超過が多い。

図表１２

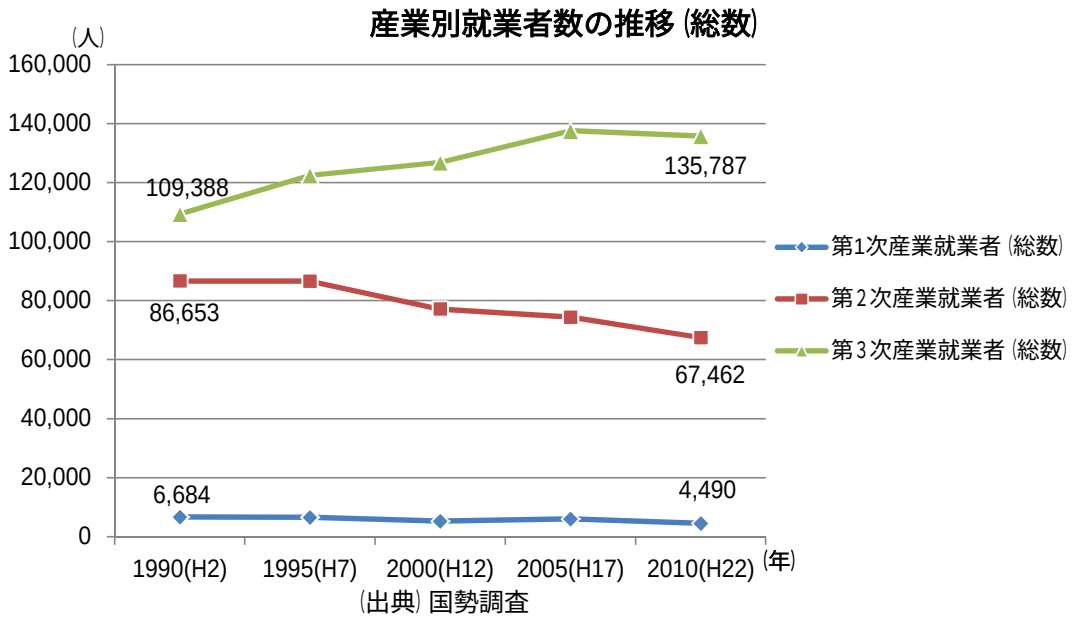



(出典) 総務省住民基本台帳人口移動報告 (2013 (平成25) 年)

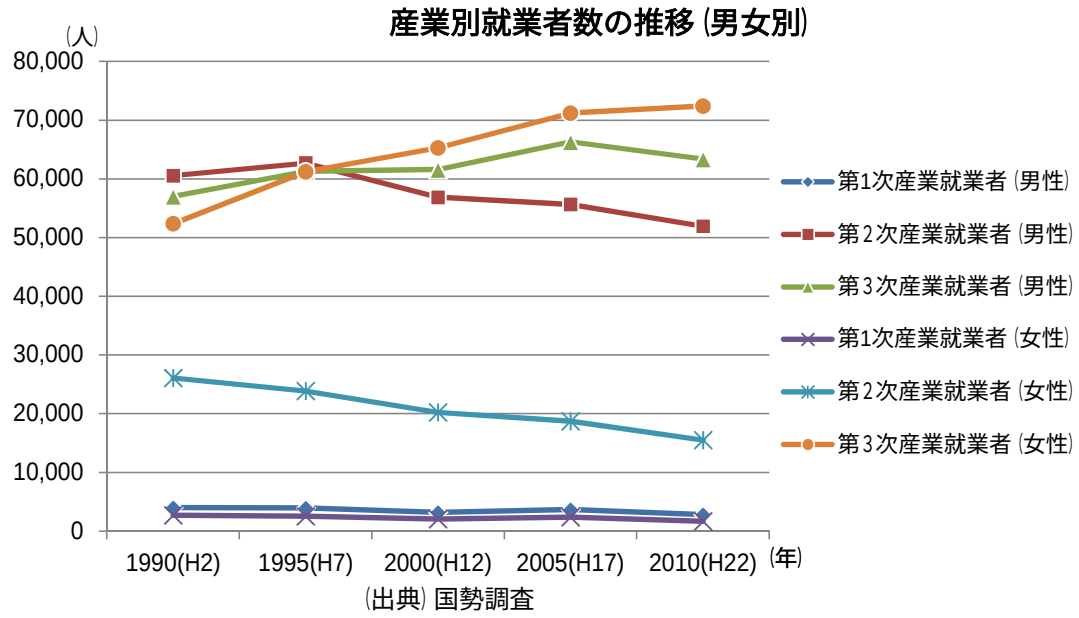
･3大都市圏全体では，15～29歳で転出超過が多く，進学や就職時に転出している可能性が強い。

･東京圏では，15～39歳のより幅広い年齢で転出超過。

図表１３




（出典）国勢調査



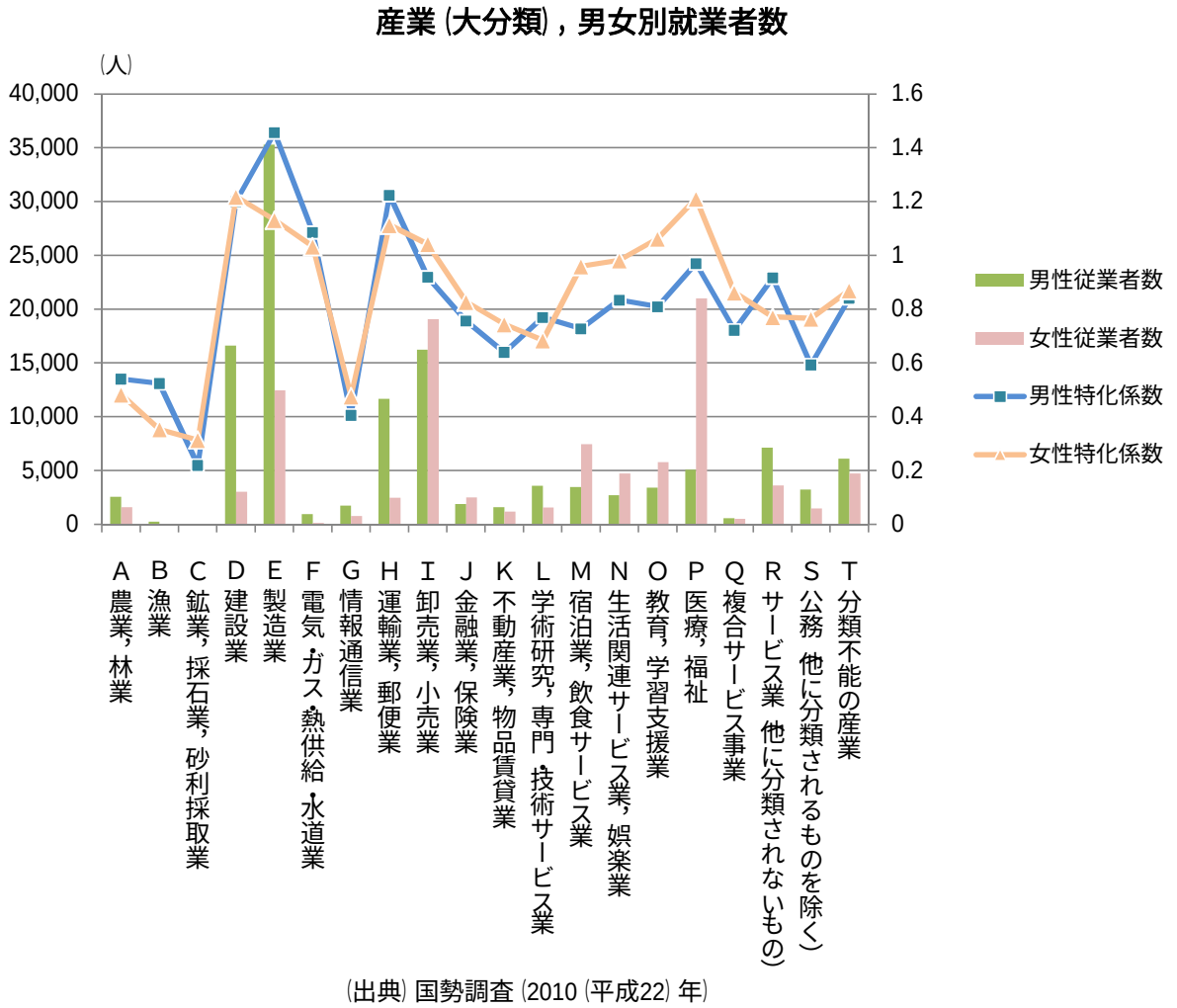

（出典）国勢調査

・1990（平成2）年と2010（平成22）年の20年間の比較で第２次産業就業者は22％減少し，第３次産業就業者が24％増加している。

・男性の場合，第３次産業就業者が11％増加し，第２次産業就業者が14％減少している。

・女性の場合，第３次産業就業者が38％増加し，第２次産業就業者が40％減少している。

図表１４



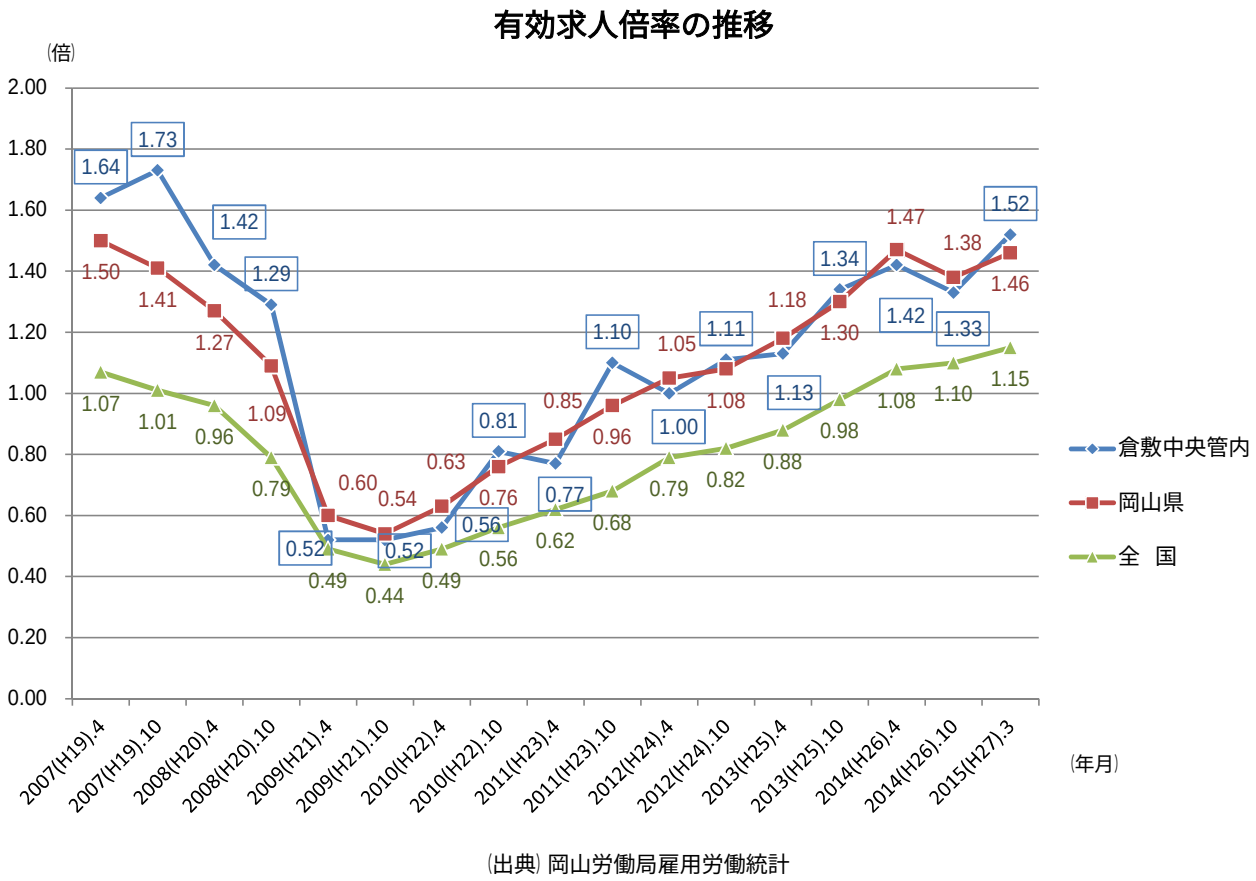

（出典）国勢調査（2010（平成22）年）

・男性は製造業，建設業，卸売業・小売業，運輸業・郵便業
の順に多い。

・女性は医療・福祉，卸売業・小売業，製造業，宿泊業・飲食サービス業
の順に多い。

・全国の従業者構成と比べて倉敷市では，
男性は，製造業，建設業，運輸業・郵便業
女性は，医療・福祉，建設業　　の割合が高い。

# 図表１５




(出典) 岡山労働局雇用労働統計

・岡山県及び倉敷中央管内の有効求人倍率は全国平均より高い。

・2009 (平成21) 10月から上昇傾向。